

事業所名 : あお空グループホーム向町

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	令和7年11月22日	評価結果市町村受理日	令和8年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に忠実に、家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりがその人らしく安心して生活できるよう支援している。定期的な音楽療法、毎日の軽運動と日替わりのレクリエーション活動で、生き生きとした生活を送れるよう支援している。
年に数回、小学生他、訪問ボランティアとの交流を図らせていただいている。
施設は市街地にあり、何かのついでにご家族等が立ち寄りやすい場所に立地している。
ご家族には、広報誌他、お便りで生活の様子をお伝えして理解に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地の7階建てビルの3階と4階部分にあり、医療機関への通院や買い物にも便利である。家族が通院や買い物のついでに気軽に立ち寄りやすい場所に立地しており、面会等は感染症等で支障がなければ可能である。洪水や津波の浸水想定区域にあり、構造も丈夫で高い建物であるため宮古市の津波避難ビルに指定され、市とも協定を結ぶなど、避難者の受け入れや備蓄の準備も整っている。地元小学校との訪問交流やコーラスグループの訪問、最近音楽に関するボランティアが定期的に訪問するなど、地域との交流が継続されている。年1回の広報発行の他、3ヵ月毎に個別の「おたより」を作成し、家族に近況を伝え利用者の状況を理解していただいている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者様の皆様が自宅で暮らしているように、家庭的な雰囲気を大切にサービスの提供に努めている。施設の見える場所に理念を掲示し、意識して業務している。	事業所開設当時に管理者が考えた理念「利用者様の皆様が家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心して生活を送れるよう努めます」について、新たな視点で見直すべきか毎年度職員とともに考えるも、この理念に尽きるとの結論に至り、継続して掲げている。3階のホール中央の見える場所に掲示し、理念に基づいた家庭的な雰囲気としたサービスを提供している。	現在の理念について、より職員にわかりやすくかつ日常のサービスへの反映に結びつきやすくするため、理念の内容をベースに具体的な小目標を2～3項目程度掲げ、職員が日々の仕事の中でも活用できるような工夫を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	小学生との交流会他、月2回の音楽療法、利用者様が以前参加していたコーラスグループのボランティア訪問など地域との交流を図っている。	地元自治会には、事業所が所属している会社(法人)として加入している。市内2つの小学校とは合唱や神楽伝承を通じての訪問交流している。そのほか、これまでの地元婦人達のコーラスグループに加え、最近では音楽に関するボランティアが定期的に訪問するなど地域との交流が深まっており、利用者も交流を通じて笑顔が多くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の相談等あった際は、随時対応し理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の現状や行事等、運営状況の報告をしている。利用者、ご家族からの要望、委員からの意見があれば、職員で共有しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、市の担当者、駐在所、自治会長、民生委員、小学校の地域コーディネーター、利用者、そのご家族等で構成されている。委員から、「避難訓練と同会議を開催日一緒に実施してはいかがか」との意見をいただいております、現在実践に向けて検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者を通じて情報交換をしている。緊急時他、相談事は日頃から連絡を取り協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、常に連絡が取れる状況である。自然災害に関する警報の際には、市の担当者から随時連絡をいただき避難等の準備を早期に進めている。そのほか、市とは「津波避難ビルの協定」を締結しているなど、災害時においても連携協力する関係性を築いている。	

令和 7 年度

事業所名 : あお空グループホーム向町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンスの際、身体拘束適正化の会議を開催している。身体拘束に繋がる言葉遣いなど含め職員間で確認しあい意識している。センサー使用の際はご家族に同意を得ている。玄関は夜間以外の施錠はない。	身体拘束適正化の指針は作成されている。3ヵ月毎に身体拘束適正化委員会をカンファレンス時に実施し、管理者、職員全員で意見交換等実施し確認している。市内で開催される研修会には、職員を出席させ知識習得の機会としている。19時から翌朝6時まで、玄関を施錠している。	身体拘束関係を含め各種研修については、出張では限られた職員の参加であるが、全職員が参加できるウェブ活用による研修も様々実施されていることから今後活用について検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束適正化の会議と一緒に、虐待についても業務を振り返り確認し防止に努めている。新しい職員には、研修で正しい知識を学んでいただき防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象者は現在いないが、外部の研修で学ぶ機会を持ち知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の内容を十分に説明し、疑問点などないか確認しながら契約内容を理解と納得をしていただいたうえで契約の締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の要望はできる範囲で対応している。ご家族には面会、連絡時に利用者様の近況を伝え意見、要望等は聞き入れてその都度、対応している。	3ヵ月ごとに「お便り」を送付する際に、「要望、意見がある場合は、電話・手紙で連絡をいただくよう」明記しており、また日常の支援の中で利用者の声を聞いたり、面会時に家族からの意見を伺うように務めている。運営に関する意見はほとんどなく、外出や外泊等の要望が多く、その都度対応している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り他、何かあった時はその都度、提案を聞く機会を設けている。管理者は職員と年に1回、個人面談を行い職員の意見や提案の把握に努めている。	毎朝の申し送りや1日終了時の際、3か月ごとのカンファレンス時に職員からの提案が出される。1年に1回管理者による個人面談も実施している。最近出された意見としては、非常勤職員と常勤職員との業務の区分についてや日頃忘れがちな業務について提案され検討し、実施に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員不足ではあるが希望、要望等は可能な範囲で応えている。研修等の参加の勧めと資格取得の際の費用負担の支援があり習得後は給与への反映がされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験年数や技術に応じた研修の参加、資格取得に向けてのバックアップし、職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人の他事業所より、取り組み他、情報を頂いている。出来る範囲での研修の参加に努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は、本人の困りごと、要望など丁寧に耳を傾け安心して話せるよう心掛けている。入居前の情報は、ご家族他、サービス関係者より得て把握している。		
----	--	---	---	--	--

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族にはホームを見学していただき、不安なこと、要望等に耳を傾け安心、納得してサービスを利用できるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族からの聞き取りから要望を把握し、必要なサービスを見極め提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の思い、やりたいこと、出来ることを把握し、日常生活を通して役割を持ち、暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会他、通院の付き添いなど、ご家族でできる範囲で協力をしていただいている。状態を理解していただき、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症などの特に制限がない場合は、面会、外出、外泊は気軽にさせていただいている。利用者様の希望があれば、電話をしたり、ご家族と馴染みのお店へ外食、近所の訪問理容などできる範囲で支援に努めている。	事業所の立地が街中ということで、病院の帰りや買い物のついでに立ち寄る友人もいたが最近はその方々も高齢となり、面会は家族がほとんどである。家族とは、外出中に外食をしたり馴染みの風景や店を利用し楽しんでいる。	

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様それぞれの生活歴、習慣を聞き取り、ホームでの生活を、その人らしく暮らせるよう、職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も、利用中の情報が必要な際は提供している。他、何かあればいつでも相談に乗ることをお伝えしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中から、思いや意向を把握できる範囲で希望に近づけるように努めている。	意思の疎通が困難な方はほとんどいないため、日常会話の中で好きな食べ物ややりたいことを聞き出し、日頃の生活の際に希望を叶えている。病気の関係で気持ちが不安になるときは、電話で家族の声を聞くことで安心する方もおり、それぞれの思いや意向をくみ取る工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のサービス事業所からの情報収集と本人、ご家族との面談時、これまでの生活歴をお伺いし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の様子を記録し、情報は毎日、申し送り周知している。表情、言動等の観察、健康チェックで変化を見逃さないよう、現状の把握に努めている。		

令和 7 年度

事業所名 : あお空グループホーム向町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族に意向、要望を聞き、その時の生活全般の課題、状態をカンファレンスで話し合い、意見やアイデアを総合的に判断し介護計画を作成している。	計画作成担当者兼管理者が中心となって介護計画を作成している。計画の見直しは概ね3か月ごとであり、モニタリングをもとに職員を交えてカンファレンスを実施している。利用者、家族にはその都度、意向確認を行いその上で計画を説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別に記録して、申し送りで情報共有している。介護計画に基づいた実践での気づき、または工夫をカンファレンスで検討、見直しをして介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の希望、ご家族の都合、状況に合わせ、通院の付き添い、急変時の入院に、仕事の都合や遠方のご家族で対応が難しい場合は、職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月2回の音楽療法、地域の小学校との交流会、ボランティア訪問、ホーム内からの花火大会の鑑賞など、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を受診している。定期受診は基本的に、ご家族対応としている。受診の際は、書面にてバイタルサイン、生活の状況を医師に報告している。状態の変化など必要に応じ職員も同行している。	基本は入居前からのかかりつけ医への通院としているが、入居にあたり事業所に近い医療機関を紹介され変更する方もいる。通院は家族が付き添い、事業所内での様子や、最近のバイタルサイン等は書面で家族に持たせて受診してもらっている。受診後は、家族から口頭で結果の説明を受け、家族・事業所双方で本人の受診結果等確認している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護職には、気づいたことや気になることを伝え、健康状態について情報共有している。利用者様の状態に変化があった時は見ていただき適切な指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、医療機関に必要な情報提供をしている。病院関係者とご家族と情報共有し、治療経過をみながら退院後の相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時と状態低下時に、ご家族には重度化への対応について説明し、理解を得ている。状態の低下、急変時はご家族に報告し適切な対応に努めている。	入居時と体調に変化があった際には、事業所での重度化時の対応について説明し、家族からも同意を得ている。事業所内で食事を食べれない、眠っていることが多い等の対応の難しさがあれば、状況に応じ医療機関への救急搬送や特別養護老人ホーム入所の勧め等で対応することもある。体制等の面もあり看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	講習会で応急手当、AEDの使用を学ぶ機会を設けている。急変時、事故発生時の対応は、すぐ確認できる場所に掲示している。マニュアルは職員間で共有し、冷静に行動できるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立ち合いで年2回、火災避難訓練と年1回、水害時の避難訓練を実施している。水害に関しては、津波避難ビルとなっており市と地域との協力体制を築いている。	ハザードマップでは、洪水津波浸水想定区域となっている。7階建ての3階及び4階がグループホームであり、災害時には上階への垂直避難を基本としている。年2回の火災想定避難訓練と年1回の水害時の避難訓練を実施している。事業所が入っているビルは街中でも高い建物であるため市指定の津波避難ビルでもある。備蓄については、発電機のほか、食料品3日分を備蓄し、万が一に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様、一人ひとりの性格を把握し、話し方、伝え方を工夫し、人格を尊重した対応を心掛けている。	話し方が利用者にとって不本意な場合があることについて、管理者から対応した職員に話すこともある。トイレ誘導や入浴時のプライバシーについては、体調面などを含め、特に留意し個別に対応している。	プライバシーについては、職員の意識啓発や振り返りが大切であることから、定期的に研修を実施して更なるプライバシーの確保に努めていただくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話の中から、本人の希望、楽しみを汲み取っている。利用者様の希望は可能な範囲で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい暮らしが出来るよう一人ひとりのペースを大切にし、その日の体調など配慮し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服はご本人で自由に選んでいる。できない方は、職員がお手伝いしている。衣類は、ご家族が準備されたものを着用している。散髪は、近所の美容室に訪問していただきカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日常の会話から食べたいものを聞いている。昼食準備は、出来る範囲で利用者様にも手伝っていただいている。毎食後の食器拭き等できる方が行っている。	献立は立てずに、ある材料で職員が食事を提供している。昼食は、手作りで利用者も一緒に材料の野菜を切ったり、餃子の場合は材料を包んだり利用者の好みを取り入れ楽しんでいる。朝夕の食事は、ご飯と味噌汁は手作り、それ以外は手早くできるよう工夫がされている。おやつ希望では、「ひゅうず」を一緒に作って食べるなど、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量と水分摂取量は、チェック表に記録し把握している。食事は食べられる量、好みものを把握し、バランスよく全量摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、うがいと義歯洗浄をして口腔ケアを行っている。自力で洗浄が困難な方は、職員が介助し清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	24時間、排泄チェック表に記入して排泄の回数を把握している。確認しながらトイレ誘導をして、自立した排泄が出来るように支援している。	一人ひとりの排泄チェック表を基に、個別に耳元で排泄を促しトイレ誘導している。失敗した場合も、周囲にわからないように小声で対応している。日中のおむつ使用はないが、腰痛のため一時的に夜間のみおむつの方が1名いる。できるだけトイレでの自立排泄を目指し声かけ対応等配慮している。車イス利用の方も、職員の複数介助が必要な場合もあるが、自らトイレに行くなど、自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ヤクルトやヨーグルトの乳製品を提供している。水分をしっかりと摂り、毎日の軽体操を実施し予防に努めている。2~3日、便秘がある場合は下剤を服薬し便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	入浴時間は午後に限られているが、本人の希望に合わせて順番他、予定を変えるなど柔軟に対応している。入浴を楽しめるように、何種類かの温泉の入浴剤を入れ工夫している。冬季は脱衣所にヒーターを置き、温度差が生じないように配慮している。	週2回入浴できるよう計画している。入浴嫌いの方はいないが、その日の気分で入浴を嫌がる場合もあり、入浴チェック表をもとに確認している。温泉の入浴剤を使用し、色や香りで温泉気分を楽しんでいる。事業所の構造上、従来の脱衣所が狭いことからホールの一部まで広げた脱衣所を入浴時間のみ作ることにより、広々と着替え等実施できるように工夫をしており、利用者にも好評である。	

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	のんびりと生活が出来るよう、利用者様一人ひとりの生活習慣に合わせている。居室は、明るさ、室温に気をつけ気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬情報で内容を確認して、効果、副作用等の把握している。利用者様別に最新の情報をファイルして、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴を尊重し家事手伝いなど出来ること、得意なことをやっていただき、張り合いのある生活を送れるよう支援している。レクリエーション活動は、日替わりで毎日楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様の身体状況から、気軽に外出が難しいところもあるが、ご家族の協力もあり、外泊他、通院の際に自宅へ立ち寄りするなど、協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の身体状況もあり、皆で外出できる頻度はコロナ禍から減少したままである。家族からの外出要望で出かけたり、受診後の薬の受け取りは近くの薬局まで職員と一緒に車椅子で出かけるなど、利用者に合わせて外出支援を行っている。	家族アンケート結果から、外出の有無はわからないと回答している家族が多い。季節ごとの外出(花見等)等再開し、家族に「おたより」で知らせることにより、外出支援が日常的に実施されていると認識され得る。今後さらに、外出支援の実施内容や家族への周知の仕方について検討いただくよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で管理している方はなく、ご家族より預り金を施設で管理している。利用者様の希望で購入したいものは、職員が代行して買い物をしている。		

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人よりご家族と話したいときは、いつでも電話で話をさせていただいている。ご家族からの写真やハガキは部屋に飾っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール内は、エアコンと床暖房で温度調整している。冬場は加湿器を設置し、快適に過ごせるよう配慮している。トイレ、浴室は、衛生面に気を付けて常にきれいにするように心掛けている。	ビルの3階と4階がグループホームとなっている。3階には共同リビングとキッチン、浴室、個室3部屋、トイレ3カ所、4階には個室6部屋とトイレ2カ所がある。利用者は、日中は3階の共同リビングで過ごす時間が多く、テーブルと椅子、ソファが置かれ、それぞれの場所で過ごしている。エアコンと床暖房で室温調整、加湿器利用で室内が快適に調整されている。壁には利用者の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の性格、相性を考慮し、食席を配置している。共用スペースにはソファがあり、日中は思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、事前に本人の使い慣れた家具など持ち込みできることを、ご家族にお伝えしている。ご家族の写真などを飾り、自分の部屋であるという安心感をもって、居心地よく過ごせるように環境を整えている。	各部屋にはベッドとクローゼット、タンスが備え付けられている。冬期間は床暖房、夏期間はエアコンで室温が保たれている。自宅からテレビや家族写真等を持ち込み、利用者が使いやすいように配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内に手すりを設置しており、転倒のリスクを減らし安全で自立した生活を送れるよう見守りしている。一人ひとりの状態に合わせて、安心して生活が送れるように支援している。		